

平成25年度北陸地方整備局コンプライアンス・アドバイザー委員会の議事概要について

日 時 平成26年3月3日(月) 13:30～15:30

場 所 北陸地方整備局 4階共用会議室

出席委員

委員長	伊津 良治	弁護士
委員長代理	吉盛 一郎	長岡大学 教授
委員	平 哲也	弁護士
委員	馬場 健	新潟大学法学部副学部長 教授
委員	山崎 真	公認会計士

議事概要

1. 審議事項

- 1) 平成25年度北陸地方整備局コンプライアンス推進計画取組状況
- 2) 平成26年度北陸地方整備局コンプライアンス推進計画(案)
- 3) 職員からの報告について

2. 委員からの意見・質問、それに対する回答等

意見・質問	回 答
<p>【平成25年度北陸地方整備局コンプライアンス推進計画取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高知県内の入札談合事件だが、事件に係わった副所長が懲戒免職を受けたといった顛末を資料に記載すれば抑止力になると思う。 ・事件を起こした業者には課徴金が課せられているなど、建設業界等には話しをしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・高知談合事件の顛末については、研修テキストの中に記載し、講義のなかで話をしている。また、この事件に関する新聞記事等、コンプライアンスに使える資料は職員対し絶えず情報提供し周知している。 ・職員に対し発注者側としてのあり方を周知している。業者側に対しては、制裁措置についての周知は特段していない。

意見・質問	回 答
<ul style="list-style-type: none"> ・多くの取り組みをしているが、特別監査報告を聞くと、各事務所への浸透状況が課題となっている印象だが。 ・本局庁舎内の可視化の取組について、どの様な改善が行われて、今の状況になったのか。 ・コンプライアンスミーティングの実施状況について、どこかにまとめた物は出ているのか。 ・出前講座や研修は参加出来ていない職員がいるが、コンプライアンスミーティングは参加率が高い状況と考えて良いか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと浸透するよう図っており、平成 26 年度推進計画(案)でも位置づけている。また、個別に指示を行うなど極力浸透するよう図っていきたい。 ・この建物は 8 年前に建てられたので、建設当初から可視化済みである。 ・結果報告を集計したものをイントラネットに掲載している。 ・コンプライアンスミーティングは取り組んで年数も経っており、職員に浸透しているため高い率となっている。
<p>【平成 26 年度北陸地方整備局コンプライアンス推進計画 (案)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度推進計画(案)では、職員の取組の言い回しが、前年の「掲げることとする。」から「掲げる。」と変えたのはなぜか。 ・業者との懇親会は定期的にあるのか。 ・文章だけでは頭に入ってこないのので、高知の談合事件を題材とした劇を作って職員に見せてはどうか。職員が見ることによって抑止力となる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度推進計画(案)では、職員自らが行うこととして言い切る形に変えた。 ・個別の業者ではなく、業界団体との意見交換の延長として行うことはあるが、国家公務員倫理規程でルール化されている。 ・本省で研修用の DVD を作成していると聞いている。配布されれば研修等で活用していきたい。

意見・質問	回 答
<p>・入札契約手続きにおける情報漏洩対策について、①予定価格の作成を入札書提出後とする、②入札書と技術提案書の同時提出、③積算業務と技術審査・評価業務の分離とあるが、情報漏洩防止にどの様に係わってくるのか。</p> <p>・応接室の可視化について平成 25 年度から取り組んでいるが、ほぼ完了したと考えて良いか。</p> <p>・研修の充実等のところだが、もう少し強く義務化と言う形にはできないのか。</p> <p>・「コンプライアンス指導員の活動」が、H25 年度の「研修の充実等」の項目から H26 年度は「職員の取組」の項目に持って来たのはどういう理由からか。</p>	<p>3点については、いずれも高知の談合事案の要因になったものを変えていくということである。</p> <p>・平成 25 年度で終了したと考えている。</p> <p>・職員研修・出前講座・コンプライアンス推進責任者等による講座について、職員はいずれかを受講するよう計画に記載した。職員の意識高揚のため、委員の言われた趣旨をできるだけ反映していきたい。</p> <p>・研修という受け身の考え方ではなく、職員自らが主体的に行ってほしいという意味合いから一段引き上げ、「職員の取組み」に持って来た。</p>
<p>【職員からの報告について】</p> <p>特に無し。</p>	